

やすらかに

ルカ福音書2:22~40 / 笠原光見

12月31日、今年最後の日ですね。そして今年最後の礼拝です。普通最後だと言われると残念だ、寂しい、悲しいなんて言う思いがわくんですが、一年の最後の日の最後のお礼拝ですけど、あまり寂しいと思わない自分がいます。

それは、明日が必ず来ることを信じているし、また来週も必ず礼拝があると思ひ、信じているから。

日はまたのぼるし、教会はいつでも変わらずここに在る。必ず来る、必ずあるってことは安心に繋がると思うんです。

聖書は言うんです、神さまは私たち人間が生きるに必要なものをすべて備え、整え、与えてくださったんだということ。太陽も月も、植物、動物、水、空気もある。ある、あるみんな備えられてある。教会もあるし、福音のみことばもあるし、祈り合う家族もある。みんな神さまが私たちのために備え与えてくださったもの。

小さいときは、お金のことも、着るもの、食べるもの、住む場所も何一つ心配することなかった。鼻を垂らしながら遊び回ってれば良かった。なぜなら、全部、お父さんお母さんが備え、整え与えてくれていたから。

シングルファザーで二人の息子を大学卒業まで育て上げた、大先輩牧師が僕にこう言ってくれた言葉があります。

「笠原先生も息子が二人なんだね。大学のお金とか大変だったよ。でもね、心配要らない、みんな備えられていくから。牧師が飢え死にしたって話し聞かないだろ。大丈夫、与えられていくよ。」

男手一つで二人の息子を育て上げた大先輩牧師の言葉は、とても力があり、そしてこんな僕みたいな後輩牧師に対しての思いやりがありって、ずっと心に残っています。

私たちにいのちを与えてくださった神さまは、私たちのいのちのために多くの賜物、恵みを備え、整え、与えてくださっている。

そして、神は、私たちに罪のゆるしと、滅びからの救いと、永遠のいのちを与えるために、独り子イエス・キリストのいのちをも与えてくださったんだと聖書は言うんです。

神は、私たちが、救い主イエス・キリスト信じて、受け止め、与えられた多くの賜物に感謝しながら、与えられた福音のみことばに力を、勇気を、希望をいただきながら、安心して、心穏やかに、和やかに、安らかに生きてほしいんです。

今日の福音書の箇所は、神の言葉に力や希望をいただきながら生きる、生かされているヨセフ、マリア、シメオン、アンナという4人が登場します。

ヨセフもマリアも神の言葉が確かに自分の身に起きていることから驚きを感じていたと思いますし、同時に、神が自分に呼びかけ、語りかけ、働きかけているという体験に大きな喜びも感じていたんじゃないでしょうか。

実際私たちは話を聞いても、身近に起きたり、自分の身に起きないと、「へえ〜、そんなことがあるんだ」位にしか思わないし、他人事のようにしか思わない。

今年はインフルエンザが流行してますという悪いニュースを聴いても、へえ〜そうなんだ、としか思っていなかったけど、息子がかかり、自分もかかったときにはニュースは確かだったということ身をしみて感じました。

私たちは今こうして福音のみことば、グッドニュースを聴いていますが、このことは、神さまが私のために、あなたのためにこの場、このときを備えてくださり、招いてくださり、呼びかけ、語りかけ、働きかけてくださっているんだ、ということを受け止めたいです。そして私たちに向けられている神の思いと、言葉と、限りない無償の愛をグッと受け止めて、共に感謝し、喜びたいで

す。

すべてのことが神さまの言うとおりに実現していることを目の当たりにし、体験したマリアとヨセフは、もちろん主の律法のいうとおりに従いながら、清めの期間を過ごし、献げ物をもって、イエスさまをエルサレムの神殿に連れて行きます。

主の律法は、これをしなさい、これコレオをしてはいけません、という生活のガイドラインです。人生のガイドラインがあるって安心でしょう。それに沿っていけばいい。これをなぞっていけばいい。これをたどっていけばいい大丈夫。安心してこのガイドにしたがって歩んで行けばいいからね。踏み外してもまたそこに戻ればいい。神さまが与えてくれたガイドラインを進んでいけば安心でしょう。

神さまは人の人生を導くために、そして安心して生きるために主の律法をあたえてくださったんです。

でも人はそれを、人を裁く道具にしたり、自己満足や、自己正当化のための道具におとしめて、人を傷つけ、傷つけ合い、神さまの御心と愛を踏みつけにした。神さまはどうにかしようと、深い憐れみと愛を持って、最高のガイドであり、指導者であり、伴走者であるイエス・キリストをこの世界に与えてくださったのです。

イエスさまが、安息日の律法を破って体の不自由な人を癒やしたとき、宗教指導者たちは怒りを露わにしました。その時、イエスさまは彼らに言いました、「安息日は人のために定められた。安息日のために人があるのではない」と。神さまが与えた律法は、あなたのいのちを守るため、支えるため、祝福するためにあるんだということです。

神が、備え、整え、与えてくださった太陽も、月も、大自然も、律法も、福音のみことばも、キリストの教会も、すべていのちあるものの祝福のため。いのちを慈しみ、育み、大切にし、安心して共に生きるためです。その神さまの思い、言葉と、愛は御子イエス・キリストのいのちを通してこの世界に示されたんです。

聖書は言います、この世界で最初に救い主、イエス・キリストの誕生という喜びの知らせ、福音が伝えられ、イエスさまに出会うことができたのは、貧しくて、人々からのけものにされているような羊飼いたちだった。そして、この世界で最初にイエス・キリストが生まれたという福音を人々に伝えたのも羊飼いたちだった。次に、イエスさまに出会い、神を褒め称え賛美したのは、シメオンとアンナという年を重ねた二人だった。そして羊飼いたちの次にキリストの誕生を人々に知らせたのは、八四歳の女性のアンナだったと聖書は言う。

シメオンが賛美して歌ったように、すべては神さまのお言葉通り、神さまの計画通りであり、神が万民のために整えてくださった救いです。

神さまはどんなに小さい者も、弱い者も、貧しい者も決して見放さないし、見捨てない。ユダヤ人であろうが異邦人であろうが、韓国人であろうが日本人であろうが、神はすべての万民を心に留め、心配り心砕き、救いの福音のみことばを持って生きる力、勇気、希望を与え、心穏やかに安らかに生きてほしいと願っておられる。

私たちは、これからも福音のみことばから慰めや、励ましをいただきながら、生きる力、希望、平安をいただき、導かれながら安らかな心持ちで、感謝、喜び、賛美をもって、生きて生きましよう。

そして、羊飼いたちや、アンナさんのように、神さまからいただいたグッドニュース、福音のみことば、愛、恵みを、伝え、知らせ、届け、共に喜び、祝い、賛美していくものでありたいです。